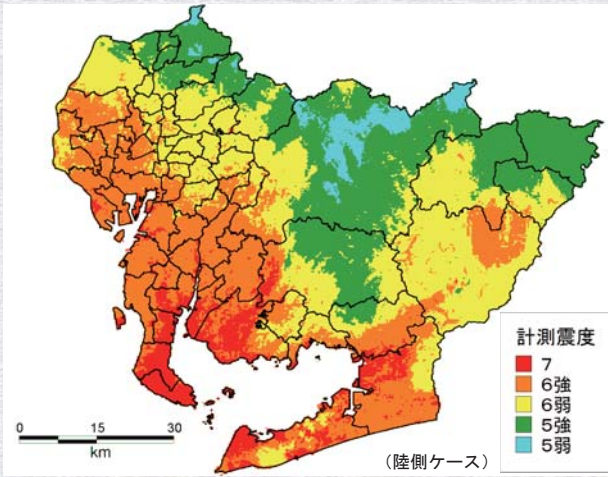


**震度分布（理論上最大想定モデル）**



**理論上最大想定モデルとは**  
 本県の地震・津波対策を進める上で、主として「命を守る」という観点で補足的に参照するもの。  
 国は、戦後最大の甚大な被害をもたらした平成23年3月の東日本大震災を教訓として、これまでの想定をはるかに超える巨大な地震・津波として、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波」を想定し、「命を守る」ことを基本として、被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方に基づいて、対策の基本的な方向性を示しています。  
 本県においても同様に、特に「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波モデル「理論上最大想定モデル」を設定しました。

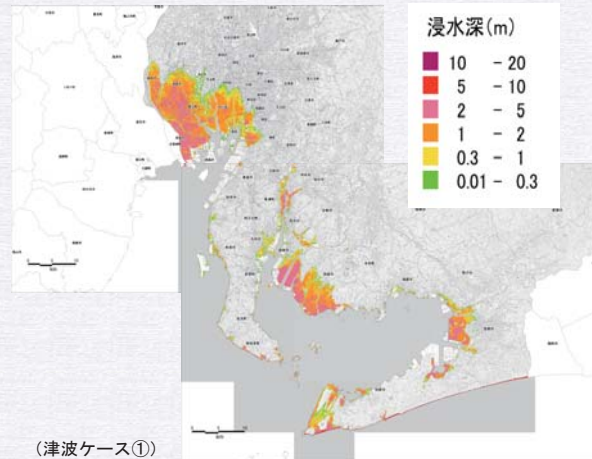
**死者数（理論上最大想定モデル）**

堤防等の条件(土堰堤)	被災する(75%沈下)*1
建物倒壊等による死者 (うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	約14,000人 (約1,000人)
浸水・津波による死者 (うち自力脱出困難)	約13,000人 (約5,500人)
	(うち逃げ遅れ)
	(約7,100人)
急傾斜地崩壊等による死者	約70人
地震火災による死者	約2,400人
<b>死者数合計</b>	<b>約29,000人</b>

**全壊・焼失棟数（理論上最大想定モデル）**

堤防等の条件(土堰堤)	被災する(75%沈下)*1
揺れによる全壊	約242,000棟
液状化による全壊	約16,000棟
浸水・津波による全壊	約22,000棟
急傾斜地崩壊等による全壊	約700棟
地震火災による焼失	約101,000棟
<b>合計</b>	<b>約382,000棟</b>

**浸水想定域（理論上最大想定モデル）**



\*1:全ての箇所について、75%沈下で想定。

**留意事項**：今回の調査は、今後の効果的な防災・減災対策の推進を目的として実施したものであり、次に発生する地震・津波を具体的に想定したものではありません。今回の想定を上回る規模の地震・津波が発生する場合など、次に発生する地震・津波については様々な可能性が考えられます。実際の地震・津波が発生した場合には、地盤沈下や堤防等の被災状況等によって、様相は大きく異なることがあります。

今回の被害予測調査結果に関して更に詳しく知りたい方は・・・

**愛知県防災学習システム**



このアドレスにアクセスもしくは「愛知県防災学習システム」と検索して、「防災マップを見る」をクリックしてください。



防災マップでは「愛知県 東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査（平成23-25年度）」による各種ハザードデータ（震度、液状化危険度、津波到達時間、津波波高、浸水深）を閲覧することができます。

